

令和五年度 統一模試 中学三年 第一回

統一実施日 七月一日 (実施時間五十分間)

国語

注意

- 1 問題用紙は表紙を入れて八ページです。これとは別に解答用紙が一枚あります。
- 2 監督者の指示に従って、解答用紙を取り出し、番号と氏名を解答用紙及び問題用紙の決められた欄に記入しなさい。また、解答用紙の「二次元コードシールをはる」と書かれたわくの中に、シールをはみ出さないようにしなさい。
- 3 監督者の「始め」の合図があるまで開いてはいけません。
- 4 答えは、問題の指示に従ってすべて解答用紙の答えの欄に、はみ出さないように記入しなさい。
- 5 筆記用具は、HBかそれよりも濃いものを用い、文字がうすくならないように注意しなさい。
- 6 監督者の「やめ」の合図ですぐにやめなさい。

氏 名

1 次の1・2の問いに答えなさい。

1 次の——線部のカタカナは漢字に直し、漢字は仮名に直して書け。

- (1) 月々の食費をセツヤクする。 (2) 雑誌をタバねる。
- (3) 話題をティキョウする。 (4) 郵便物を開封する。
- (5) 迷惑を被る。 (6) 古い塗料を剝離する。

2 次の「文芸」という字を行書で書いたものである。見られる行書の特徴として適当でないものを一つ選び、記号で答えよ。

文芸

ア 点画の連続 イ 点画の省略

ウ 筆順の変化 エ 点画の方向の変化

2 次の文章を読んで、あとの1～5の問いに答えなさい。

如何に読むべきかという問題は何を読むべきかという問題と関連している。ひとは凡ての書物を同じ仕方で読むことはできないし、また同じ仕方ではならぬ。博く読むためには書物の種類に従って読み方を変えなければならない。そこに読書の技術があるのである。

何を読むべきかに就いては、もちろん、善いものを読まねばならず、悪いものを讀んではならぬということは明らかである。悪い本を読むことはそのこと自身無益であるばかりでなく、悪い本を讀んでいるうちには善いものと悪いものとを区別することができなくなってしまう

という危険がある。ひとはただ善いものを読むことによって善いものと悪いものを見分ける眼を養うことができるのであって、その逆ではない。善い本は a 読み易い本ではない。大きな、分厚な、むつかしい本であるからといって避くべきではなく、その方面で最も善い本を読むように努めなければならぬ。読書においても努力が大切であり、そして努力はつねに報いられるのである。やさしい本、読者に媚びる本ばかりを讀んでは、^①真の知識も教養も得ることができぬ。一度でその本が全部理解されなくても好い、ともかく善いものにぶつかってゆくことが肝要である。 b 一度で理解することができなければ、暫らく間において再び読むようにするが好い。努力して読書する習慣を作ることが大切である。尤も、むつかしい本、大きな本がつねに善い本であるという風に誤解してはならぬ。それはペダンチックな人の陥る誤解である。善い本は本質的に云ってすべて最も理解し易い本であるというのみでなく、初めから困難なしに読める本にも善い本は多いのである。そして読書においてぶつつかる困難を克服するためには系統的に読むことが大切である。読書も無秩序であつては益がなく順序を追うて読むようにしなければならぬ。先輩の意見を聞くことが有益であるのは何よりもこの点についてである。

一般に何が善い本かといえば、もちろん古典といわれるような書物である。古典は歴史の試練を経て生き残ってきたものであり、すでに価値の定まった本である。古典は決して旧くなることなく、つねに新しく、つねに若々しいところを有している。^②古典を読むことによつてひとは書物の良否に対する鑑識眼を養うことができるのである。古

典を愛しないような真の読書家はなく、古典についての教養を有しないような真の教養人はない。古典はつねに安心して読むことができ、幾度繰り返して読んでもつねに新たな利益を得ることのできるものである。かように価値の定まった本を読むように心掛けねばならぬところから、人々は屢々、古典というほどでなくとも既にいくらかの年数を経てなお読まれているような本を読むことにして、新刊書をすぐ手に取ることはやめねばならぬという風に忠告している。これは確かに有益な忠告である。ただ新刊書ばかり漁るのは好くないことに相違ない。しかしながら読書における尚古主義にもまた限界がある。アカデミズムに対してジャーナリズムには独自の意義があるように新刊書を読むということにもそれ自身の意義があるのである。時代の感覚に触れるために、また今日の問題が何処にあるかを知るために、ひとは新刊書に接しなければならぬ。新しい感覚をもち新しい問題をもつて対するのでなければ古典も生きてこないであろう。すべて過去が活かされ、伝統が甦ってくるのは現在からである。古典を顧みないというのは固より悪いことであるが、新刊書を恐れるというのも正しくないことである。古典は安心して読むことができる本であるに對して、新刊書を読むことは一種の冒険である。しかし読書においても冒険するのでなければ得ることがないであろう。古典を偏愛して新刊書を嫌悪する者において読書は単に趣味的になる傾向があり、一種のディレッタンテイズムに陥り易い。しかしまた新刊書ばかり漁って古典を顧みない者も他の種類のディレッタンテイズムに陥る危険がある。読書にも年齢があり、老人は古典的なものを好み、青年は新しいものを求めるとい

うのが普通である。青年が新刊書を喜ぶということはその知識欲の旺盛を示すものであつて排斥すべきことではないが、しかしそこにはまた単なる好奇心の虜になる危険もあるのである。古典のために新刊書を軽蔑することなく、新刊書のために古典を忘却することのないようにするのが肝要である。

(三木清「読書と人生」による)

(注) ペダンチックⅡ学者ぶること。自分の学識をひけらかす態度をいう。

尚古主義Ⅱ昔の文化・思想・制度などを模範とし、これにならおうとする考え方。

アカデミズムⅡ学問・芸術の伝統や権威を重んじ、正統性を守ろうとする立場。

ジャーナリズムⅡ新聞・雑誌・ラジオ・テレビなどにより、時事的な問題の解説・批評などを伝達する活動、機関。

ディレッタンテイズムⅡ芸術や学問を趣味や道楽として愛好すること。

1 Ⅱ線部「れる」と同じ意味・用法のものを次から選び、記号で答えよ。

ア 先生が海外から帰国される。

イ 昔のことが思い出される。

ウ この食品には多くの栄養が含まれる。

エ この長い距離なら歩いていかれる。

2 本文中の a と b にあてはまる語の組み合わせとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア (a) けつして b むしろ

イ (a) 必ずしも b もし

ウ (a) まさか b たとえ

エ (a) きつと b まるで

3 次の文は、——線部①について、筆者が、真の知識や教養を得るためには、どのように読書をするのが大切だと述べているかを説明したものである。I には、最も適当な五字の言葉を、II には、最も適当な六字の言葉を本文中から抜き出して書け。

真の知識や教養を得るためには、各分野で I を読む努力をしなければならず、一度でその内容を理解できなくとも、繰り返し読み、読書をする習慣を作ることや、II ことが重要である。

4 ——線部②とあるが、筆者は、書物の良否を判断する力を養う「古典」とはどのようなものだと言っているか。六十五字以内で説明せよ。

5 本文中で述べられていることとして、適当でないものを次から一つ選び、記号で答えよ。

ア 古典を愛しない真の読書家や古典に関する教養を有しない真の教養人はいないが、古典を偏愛して新刊書を手に取ってはいけな

イ 新刊書を読むことは、時代の感覚に触れ、今日の問題が何処にあるかを知るために必要であるが、新刊書ばかり漁って古典を気にかけないでいると、単なる好奇心の虜になる危険もある。

ウ 古典を模範とする尚古主義にも限界があるが、古典を読んで獲得した新しい感覚や問題がなければ新刊書も生まれてこないの

エ 新刊書を読むことは一種の冒険であるが、それでなければ得られないこともあり、新刊書を読むこと自身にも意義があるので、古典のために新刊書を軽蔑しないようにすることが大切である。

3 次の文章を読んで、あとの1～4の問いに答えなさい。

次は、義経が馬の上から弓を落とした後の場面を描いたものである。

うつぶして鞭むちを持つてかき寄せて、取らう取らうどし給へば、兵ど

も「ただ捨てさせ給へ。」と申しけれども、つひに取つて、笑うてぞ帰

られける。大人どもつまはじきをして、「くちをしき御事候ごうふかな。

(爪を弾いて) (残念なことでございますなあ)

①たとひ千疋万疋にかへさせたまふべき御だらしなりとも、いかでか御

(大金とお換えになることができるほどの立派な弓)

(どうして)

命にかへさせたまふべき」と申せば、判官「弓の惜しさに取らばこそ

(取ったのではない)

義経が弓といはば、叔父(注)なとむの為朝(注)なとむが弓の様ならば、わざともおとして取

(義経の弓)

(為朝の弓)

らすべし。厄弱わうじやくたる弓をかたきの取り持つて、これこそ源氏の大將

(弱々しい)

(敵が取って持っていく)

義経が弓よとて、嘲哂てうしせんずるがくちをしければ、命にかへて取るぞ

(ばかにする)

かし」とのたまへば、みな人これを感じける。

(おつしやると)

(注) つまはじき＝不満なときにする動作。

判官＝義経のこと。

為朝＝源為朝。強い弓を持っていた勇猛な武将として知られる。

(「平家物語」による)

1 線部①「たとひ」を現代仮名遣いに直して書け。

2 線部②「わざともおとして取らすべし」の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア わざと落としても敵に取らせたであろう。

イ わざと落としたらきつと敵が取るに違いない。

ウ わざと落としても家来が受け取るであろう。

エ わざと落としたら自分では取りに行かないだろう。

3 本文には、平家側の武士が発する言葉を想像して述べている部分が一か所ある。その言葉を本文中から十四字で抜き出して書け。

4 次は、本文の内容をもとに先生と生徒が話し合っている場面である。

I・II に適当な言葉を補って会話を完成させよ。ただし、

I には五字程度、II には三十字以内でふさわしい内容を考えて現代語で答えること。

先生 「本文の前半では、馬上から弓を落とした後の義経の行為に対して、家来がいらしめています。家来は義経の行為に対して、どのように考えていたのでしょうか。」

生徒A 「はい。どんな高価な弓であつても I もものはないと考えていました。」

先生 「そうですね。では、この家来の考えに対して、義経はどのように答えていますか。」

生徒B 「はい。II ことが悔しいから、弓を拾い上げるのだと答えています。」

先生 「その通りです。このような名誉を重んじる義経の姿勢を知り、家来たちは感心したのです。」

4 次の文章を読んで、あとの1～6の問いに答えなさい。

巧は中学一年生。小学生のころから野球少年として活躍し、今では県内でも指折りの投手（ピッチャー）として名を知られている。そのためか、チームの他の選手達とはあまりかわらうとしない。そんな巧には、兄を応援し、尊敬している青波という弟がいる。家族は、兄弟と父母、そして、野球チームの監督経験のある祖父の洋三の五人である。

「青波、牛乳なかったんだよな」

「うん。食パンもないしイチゴもない。ウィンナーとリンゴもほしいあのね、おにいちゃん、ぼくもいつしよにいつてええ？」

「だめだ。やつとカゼが治ったばかりだから。うろろろするな」

「もう、治ったもん。つれていつて、荷物ちゃんと持つけん」

「もう、めんどうなやつだな。じゃ、おれが着替えてくる間に、買う物ちゃんとメモしとけ。それと、上着をちゃんと着て……なんだよ、じいちゃん。なに、じつと見てんだよ」

洋三は、頬のあたりをぼりぼりと指でかき、にやりと笑った。

「いや感心してたんじゃ。おまえ、なかなか頼もしいじゃないか。けつこういろいろと細かくやれるんじゃないか」

巧が、ゆつくりと一つ、まばたきした。

「じいちゃんは、おれが野球以外なんにもできないと思ってるわけ？」

「巧、わしは誉めたつもりじゃ。そういう言い方をするな。おまえが、なにもできないなどと思うたことは一度もないぞ。おまえは、小さいときからえらく器用な子じゃった。やろうと思えば、なんでもできるんじゃないかな……むしろ、反対じゃないんか」

「反対？」

「なにもできないんじゃないのうて、野球以外のことを、なにもやろうとしないんじゃないんか」

「他のことなんて、必要ないだろう」

この子はどうして、こういう言い方をするのだろう。

洋三は、目の前の孫の顔を見つめていた。

① 他のことなんて、なにも必要ない。そんなセリフを十三、四の子が、こともなげに言いきる。力強くも潔くも聞こえるけれど、ちがう。聞こえるだけで実は、ひどく危ういものなのだ。

② 巧、おまえ、いつか、そのセリフに追いこまれるぞ。

突出した才能を持って生まれたということは、幸福なことでも恵まれたことでもない。才能自体にふりまわされ、追いこまれ、人間として成熟しないまま、つぶれていく。そんな危うさを抱え持って、生きていかねばならないということなのだ。

「巧」

「うん？」

「ほんとに、そう思っているのか？」

青波とメモ帳になにか書きつけていた巧は、顔をあげただけで、肯定も否定も示さなかった。

「巧、野球に選ばれるんじゃないかってな、^③野球を選ぶぐらいの者になれや」

「どうということ？」

「どうということか……そうだな、野球とともに生きていくとは、どういうことなのか、話してやる時期なのかもしれないな。」

「おまえ、世の中に、どんなものがあるんか知つとらんか。自分がなにができるんか、なにができないんか、なに一つわかってないじやろうが。そこをちゃんと知つたうえで、それでも野球をやろうとする者だけがな、自分で野球を選んだと言えるんじゃない。あんまり、自分を過信するなよ」

④ 母親によく似た切れ長の目が、ずっと細くなる。まつげが影をおとし、考えこむような表情をつくった。しかし、次に祖父を見おろした眼差しはきつく、一瞬、洋三が身を硬くしたほどの荒々しさがあつた。なんだ？　と思つた。穏やかに話したはずだった。おしつけでも説教でもなく、伝えたいことを洋三なりに伝えようとしていたのだ。おしつけや説教には抗つても、真摯な言葉には真摯に耳をかたむける。巧は、

そういう子だと思つていた。それなのに、この荒々しい目つきは……「な、トイレットペーパーも買うとく？　それと、ラーメンとかもいると思う？」

⑤ 青波が、兄の腕にさわる。それを払いのけ、巧はキッチンから出ていった。

階段をのぼる足音がする。洋三は、大きく息をはきだした。孫を相手に、一瞬とはいえ緊張したことが恥ずかしかった。

巧を粗暴な少年だとは思わない。自己を制御する力を十分すぎるほど持つている子だ。意志で感情や肉体を支配し、動かす。自分をコントロールするのは自分だけだという信念は、稀有な野球の能力に支えられて、過剰なほど強く在る。そう思ってきた。しかし、さっき巧がみせた荒々しい感情はなんだろうか。大声で叫んだわけではない、ものをたたき壊したわけではない。その目に、こちらがたじろぐようなきつい光をうかべただけだ。それは、マウンドに立つピッチャーの厳しい眼差しとはちがう。もつと、いらだち、^⑥猛々しいものだった。いっしょに暮らし始めて一年になる。その気性の激しさも強さもわかっているつもりでいた。けれど、十四の少年が獣に近い目つきをするななどと思ひもなかった。しかも、敵にではない。ぼそぼそと懸命に語っていた祖父に対してだ。自分の感情をもてあまし、どう収めていいかわからない。

⑦ そういうことか……だとしたら……

もう一度、今度はひそやかに息をついてみる。

おもしろいかもしれんな。

うぬぼれを、巧、粉々にされてみるといい。さなぎの殻をやぶって虫がふ化するように、自分の内にあるコントロール不能の感情に、今までのおまえを食い破られてみるがいい。食い破られながら、ボールを握れ。

「おじいちゃん」

青波が、洋三の手を握り、きゅつと力をこめた。

「なに考えとん？　だいじようぶじゃで、おにいちゃんなら、怒った

りしてないで」

「えっ、あ、そうか。おじいちゃん、また余計なことを言うてしまうたかなと思うてな」

「けど、おじいちゃん、かつこよかったで」

「は？ かつこよかった？」

「うん。おじいちゃん、おにいちゃんに野球の話をしよるときが、一番、かつこよく見える」

⑦ 洋三は、細くて温かい青波の手を握りかえた。

「そうか。おじいちゃんがかつこええなんて言うてくれるのは、青波だけじゃな」

青波は笑顔でうなずき、いつてきますと手をふった。

「青波、上着をちゃんと着ろ。マフラーもしとけ。文句言うならつれていかないぞ」

巧にどなられ、青波がなにか言いかえしている。その声は、玄関のドアにさえぎられ、すぐに聞こえなくなった。

（あさのあつこ「バッテリーV」による。一部省略等がある。）

⑧ 潔く未練がましいところがなく、立派に。切れ長目じりが長く切れこんでいるさま。

抗って相手の言うことを否定し、それをねつけようとして。

真摯にまじめでひたむきなこと。

稀有にめったにないこと。

マウンドに投手が投球するときに立つ、土を盛って高くした所。

猛々しいに荒々しくていかにも強そうな。

1 線部①とあるが、本文中での意味として最も適当なものを次

から選び、記号で答えよ。

ア 周りを見なくても自信のある様子で

イ 自分だけを信じてひたむきな様子で

ウ 何事もないかのように平気な様子で

エ 物事に集中してしっかりした様子で

2 線部②において、洋三が巧にわかってほしいと思っていたことを七十字以内で説明せよ。

3 次の文は、——線部③について、洋三はどのような人物が野球

を選ぶ者だと考えているかを説明したものである。に十五

字以内の言葉を補い、文を完成させよ。

を知ったうえで、野球をやろうとする人物。

4 線部④とあるが、このときの巧の心の状態を最もよく説明している一文を抜き出し、最初の五字を書け。

5 線部⑤、——線部⑥とあるが、これらの場面における洋三の

心情の変化を表現したものとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア いきどおりは抑えたものの、落胆せざるを得なくなった。

イ 不安で張りつめていた気持ちが緩み、期待感につながった。

ウ 困り果ててどうしようもなかったが、次第に心が安らいだ。

エ 腹立たしかった気持ちが落ち着き、後悔の思いにかられた。

6 線部⑦とあるが、このときの洋三の心情として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア わしの気持ちを案じて心配りしてくれる青波よ。心配しなくて

いいぞ。それにしても、まだまだ子どもだと思っていたのに、ずいぶん成長して心強くなったものだ。

イ こんなふうにおまえたちと楽しい会話をできるのが、わしにとつては何よりも幸せなことだ。青波よ、これからは元気で、巧と

仲良く、わしの話を聞いてくれよ。

ウ わしがかつこよいなんて、青波はやっぱりまだ子どもだね。お

まえも一緒に野球を楽しもうな。これから、わしも巧のように、

自信をもつて頑張っていくからな。

エ おまえの兄はどうしてこんなにいらだっているのだろうか。青

波のように、わしを信じてもっと自分の気持ちに素直になれば、

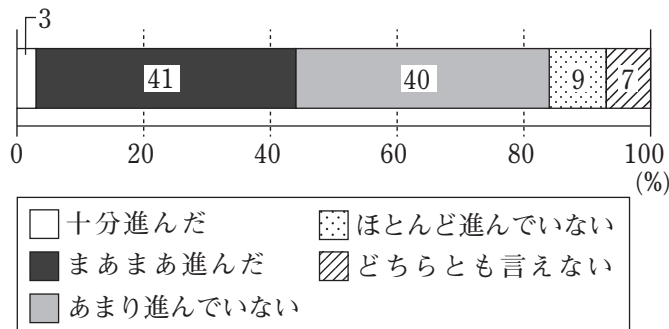
人間としても成長できるだろうに。

人間としても成長できるだろうに。

ある中学校では、バリアフリーやユニバーサルデザイン（UD）について学習しています。次の資料1と資料2は、内閣府が全国の15歳～79歳の男女を対象に行った「バリアフリー・ユニバーサルデザイン（UD）に関する意識調査」から作成したものです。今後、重点的にバリアフリーやユニバーサルデザイン（UD）にしていくことが必要だと思う施設についてのあなたの意見を、あとの(1)～(5)の条件に従って書きなさい。

資料1

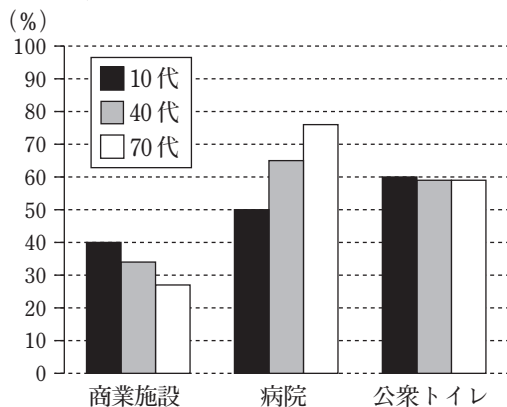
日常生活や社会生活を送るうえで、どの程度バリアフリーやユニバーサルデザイン（UD）が進んだと思いますか。



※調査対象：15歳～79歳

資料2

今後、特にどの施設を重点的にバリアフリーやユニバーサルデザイン（UD）にしていくことが必要だと思いますか。（複数回答）



※商業施設：百貨店、スーパーマーケット等 ※10代：15歳～19歳

バリアフリー……障がいのある人や高齢者などが、社会の中で安全・快適に暮らせるよう、身体的、精神的、社会的な障壁（バリア）を取り除こうという考え。

ユニバーサルデザイン（UD）……言語や文化、国籍、性別、年齢、障がいの有無などにかかわらず、だれでも使えるように設計するという考え。

条件

- (1) 二段落で構成し、六行以上八行以下で書くこと。
- (2) 第一段落には、資料1、資料2からそれぞれ読み取れることを書くこと。
- (3) 第二段落には、あなたが今後、重点的にバリアフリーやユニバーサルデザイン（UD）にしていくことが必要だと思う施設を、資料2の項目から一つ選び、あなたの体験をもとに意見を書くこと。
- (4) 資料を示す場合や、資料中の数値を使用する場合は、次の例にならって書くこと。また、ユニバーサルデザインはUDと書いてもよい。
- (5) 原稿用紙の正しい使い方に従って、文字、仮名遣いも正確に書くこと。

例 資料↓資料1 数値↓10 %